

株主の皆様へ

ORIGIN REPORT

第124期 中間報告書 2024.4.1 ▶ 2024.9.30

 **株式会社 オリジン**

証券コード：6513

独自技術を進化させ、新たな技術開発を通じてお客様の価値を創造し、豊かな社会に貢献します

株主の皆様には平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第124期中間連結会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）のご報告をお届けするにあたり、概況を申し上げます。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境やインバウンド需要の改善する下で、緩やかな景気回復の動きが見られました。しかしながら、地政学リスクの長期化に加えて、欧米では利下げが実施されたものの金利は高水準を継続しており、資源・エネルギー及び原材料価格は高止まりの状況が続いております。また、不安定な為替相場、中国経済の停滞などによる国内景気への影響も懸念され、依然として先行き不透明な状況にあります。このような中、当中間連結会計期間の売上高は140億3千8百万円（前年同期比1.7%増）となりました。利益面におきましては、営業利益6千9百万円（前年同期は営業損失4億5千1百万円）、為替相場の変動により為替差損9千8百万円を計上したものの経常利益は2億7百万円（前年同期は経常損失7千万円）、これに税金費用を計上した結果、親会社株主に帰属する中間純損失は7千7百万円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失4億4千9百万円）となりました。

私たちは、全て基本（Origin）から経営や研究を考えていくという創業時からの精神を引き継ぎ、混合体から複合体、更には融合体として、新たな価値を創造し、社会に貢献する会社を目指します。

なお、中間配当金につきましては、11月12日開催の取締役会におきまして、1株20円とさせていただきますので、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

2024年12月



代表取締役社長CEO 稲葉 英樹

経営理念

人類社会に役立つ
存在感あふれる企業を目指し

世界中から情報が集まり人が集まる
「開かれた企業」となろう

オンリーワン技術を磨く
「独自性ある企業」となろう

チャンスを与え失敗を乗り越え、
任せることの出来る
「自己実現の場である企業」
となろう

新たな価値を創造し、
社会に貢献する企業となろう

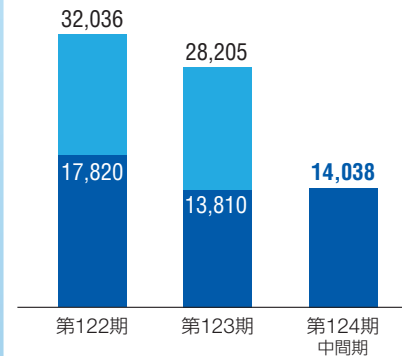
売上高

140億38百万円

（前年同中間期比2億28百万円増 )

■ 中間期 ■ 通期

（単位：百万円）



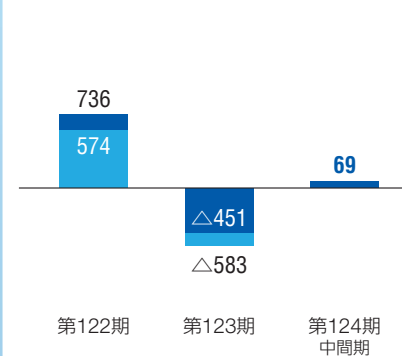
営業利益

69百万円

（前年同中間期比5億20百万円増 )

■ 中間期 ■ 通期

（単位：百万円）



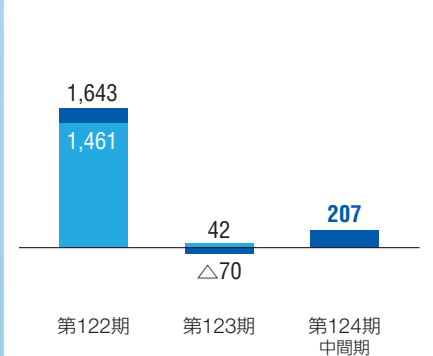
経常利益

2億7百万円

（前年同中間期比2億77百万円増 )

■ 中間期 ■ 通期

（単位：百万円）



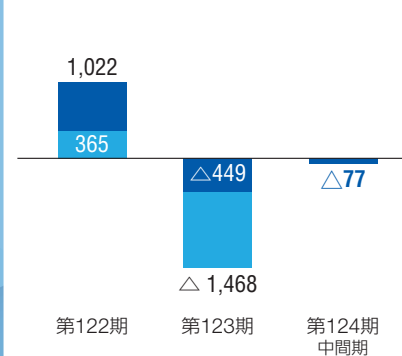
親会社株主に帰属する当期純利益

△77百万円

（前年同中間期比3億72百万円増 )

■ 中間期 ■ 通期

（単位：百万円）



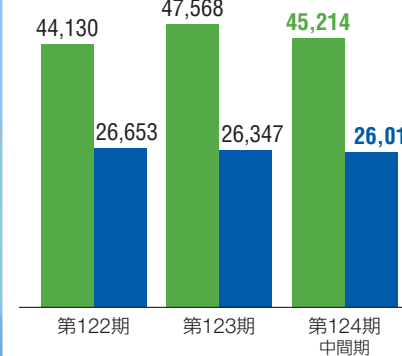
総資産/純資産

452億14百万円（前年期末比 総資産：4.9%減 )

260億12百万円（前年期末比 純資産：1.3%減 )

■ 総資産 ■ 純資産

（単位：百万円）



第124期 通期業績予想

売上高 30,000百万円

営業利益 350百万円

経常利益 700百万円

親会社株主に
帰属する
当期純利益 200百万円

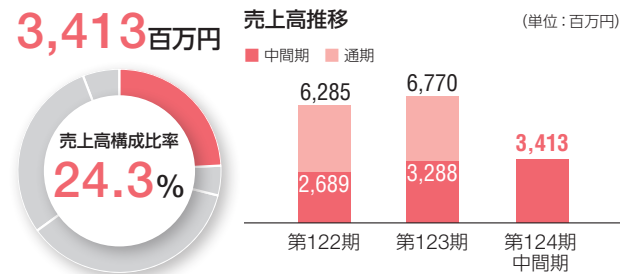
1株当たり
当期純利益 35円66銭

2024年11月27日に「2025年3月期第2四半期（中間期）連結決算説明資料」を開示いたしました。
詳細はこちら↓

<https://www.origin.co.jp/ir/library/document/>



エレクトロニクス事業



エレクトロニクス事業の売上高は前年同期比3.8%増の34億1千3百万円(総売上高の24.3%)、セグメント利益は3億9千9百万円(前年同期比98.0%増)となりました。

主力の半導体製造装置用電源が市場の設備投資抑制の影響により前年同期比で減収となりました。通信用電源は主力機種の入替え需要により大幅増収、医療用電源・モビリティ関連は微増収となりました。

主要製品

電源機器

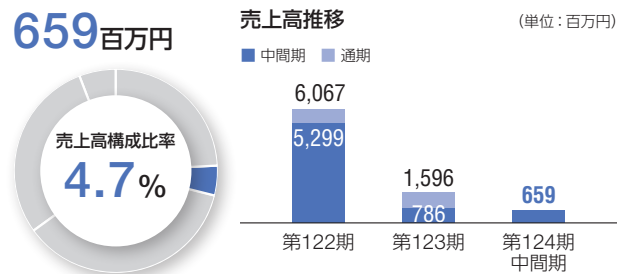
- 医療用X線電源
- 半導体製造装置用電源
- UV/光源用電源
- EV連携/スマエネ用電源
- 電気集塵機用電源
- 通信用電源

詳細はこちらから

<https://www.origin.co.jp/product/technology/electronics/>



メカトロニクス事業



メカトロニクス事業の売上高は前年同期比16.2%減の6億5千9百万円(総売上高の4.7%)、セグメント損失は2億8千3百万円(前年同期はセグメント損失4億円)となりました。

ギ酸還元真空リフロー炉(VSM)の販売に注力したものの、メイン市場の中国向けが市況の急減速を受け想定した売上に至りませんでした。

主要製品

システム機器

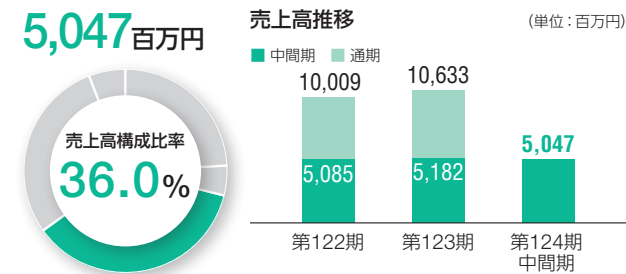
- モバイルディスプレイ貼合装置(MDB)
 - 車載・産業用ディスプレイ貼合装置(DB)
 - 光学レンズ貼合装置(OLB)
 - 大型溶接機(RMW)
 - 光半導体用溶接機(CSW)
 - ギ酸還元真空リフロー炉(VSM)
- および各種システム機器

詳細はこちらから

<https://www.origin.co.jp/product/technology/mechatronics/>



ケミトロニクス事業



ケミトロニクス事業の売上高は前年同期比2.6%減の50億4千7百万円(総売上高の36.0%)、セグメント利益は3億5千1百万円(前年同期比10.0%減)となりました。

主力のモビリティ関連で国内、海外ともに自動車メーカーの販売不振の影響で売上が伸び悩み前年同期比で減収となりました。

主要製品

合成樹脂塗料

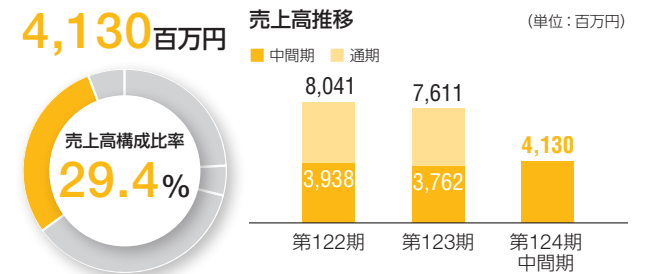
- プラスチック用塗料
- めっき・金属用塗料
- 機能性塗料(熱対策、無反射、防錆他)
- カーボンニュートラル(非石油由来、ハイサイクル)

詳細はこちらから

<https://www.origin.co.jp/product/technology/chemitronics/>



コンポーネント事業



コンポーネント事業の売上高は前年同期比9.8%増の41億3千万円(総売上高の29.4%)、セグメント利益は5億2千3百万円(前年同期比37.9%増)となりました。

金融機器関連と産業機器関連は低調に推移しましたが、主力の事務機器関連が円安影響も受け売上に牽引したことに加えモビリティ関連も採用拡大に伴い好調に推移し、増収となりました。

主要製品

精密機構部品

- ミニチュアベアリング
- ワンウェイクラッチ
- トルクリミッタ
- トルクヒンジ
- 逆入力遮断クラッチ
- ゴムローラおよび各種複合化製品

詳細はこちらから

https://www.origin.co.jp/product/technology/precision_machinery_parts/



その他 (半導体デバイス事業)

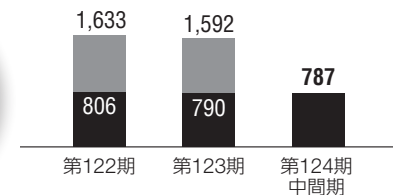
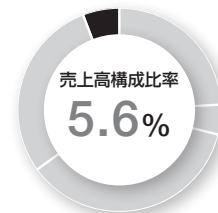


787百万円

売上高推移

(単位: 百万円)

■ 中間期 ■ 通期



その他 (半導体デバイス事業) の売上高は前年同期比0.3%減の7億8千7百万円 (総売上高の5.6%)、セグメント利益は9千万円 (前年同期比336.1%増) となりました。

主力の産業機器関連が市場の半導体設備投資抑制の影響により減収となりました。

主要製品

パワー半導体

- 高耐圧ダイオード
- 高速ダイオード
- 整流ダイオード
- サージ防護素子
- ショットキーバリアダイオード等の半導体およびその複合モジュール

詳細はこちらから

https://www.origin.co.jp/product/technology/semiconductor_device/



TOPICS — 設備投資関連 —

パワーバックドア向けトルクリミッタ国内生産設備増強



コンポーネント事業は、自動車の安全性能を高める機構部品「パワーバックドア向けトルクリミッタ」の需要量増加対応として、国内生産ライン向けに今期追加の設備投資を実施します。

これにより、生産能力増強や原価低減、品質向上を図ります。

パワーバックドア向けトルクリミッタは、自動車の電動バックドアに搭載され、パワーバックドア開放時の急な動き出しや、開放停止時の扉の低下を防止する部品です。

安全性を高めることができるため、モビリティ市場にて注目されています。



「パワーバックドア」
の動画はこちら

世界中へ広がるネットワーク

■ 事業所 (含, 事務所)

● 子会社





中期経営計画で掲げる「変革」を一層追求していく中、
社会課題解決と当社ビジネスの両立を果たし、
オリジンのサステナビリティ経営を実現してまいります。

当社のサステナビリティの取り組みでは、カーボンニュートラルへの貢献においては、2030年に自社分のCO₂排出量を2015年の排出量を基準として50%削減する目標達成に向けた再生可能エネルギーの活用や、サプライチェーン全体のCO₂排出量削減に向けたScope3算定を進めています。

一方、人的資本強化の取り組みにおいては、そのベースあるいは財産となる人材育成面で、まだまだ課題があると捉えています。これまで、各事業が特徴的であるが故に事業部間の交流が少なく、新市場や新技術開発に向けての複合的な動きがやや欠けていたのも事実でした。このような認識の下、当社では社内人材の流動性を高めるための新たな取り組みをスタートさせました。

リスクリング、また、女性活躍推進や経験豊富で優秀なシニア層の活用なども含め、人的資本の強化を事業の活性化に繋げていきます。

中期経営計画で掲げる「変革」に取り組み、サステナビリティ経営を実現してまいります。

▶ サステナビリティレポートの開示

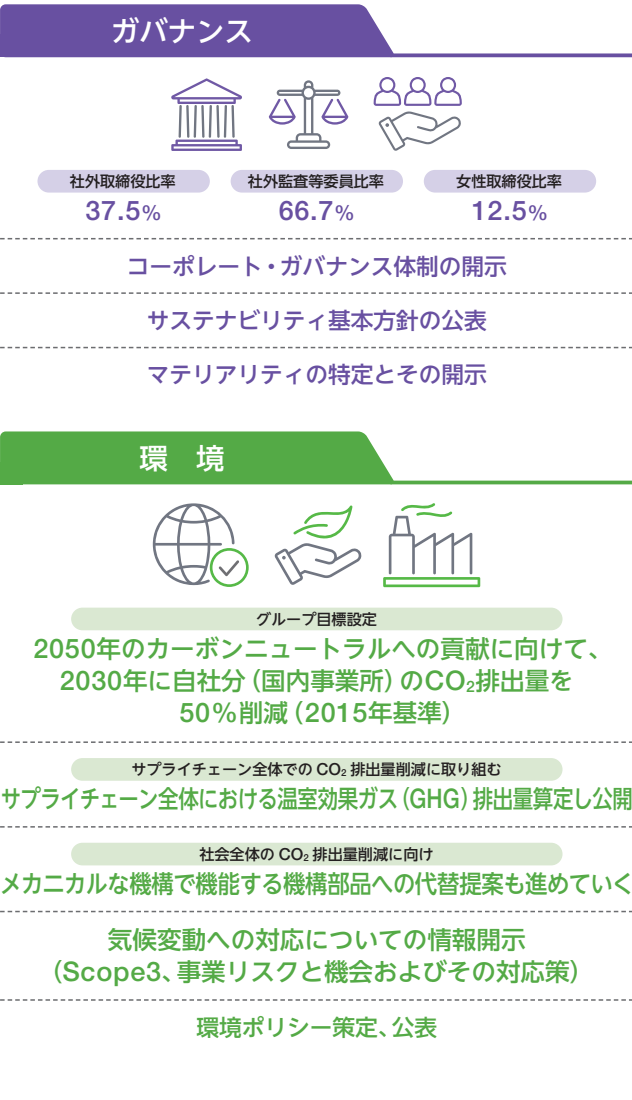
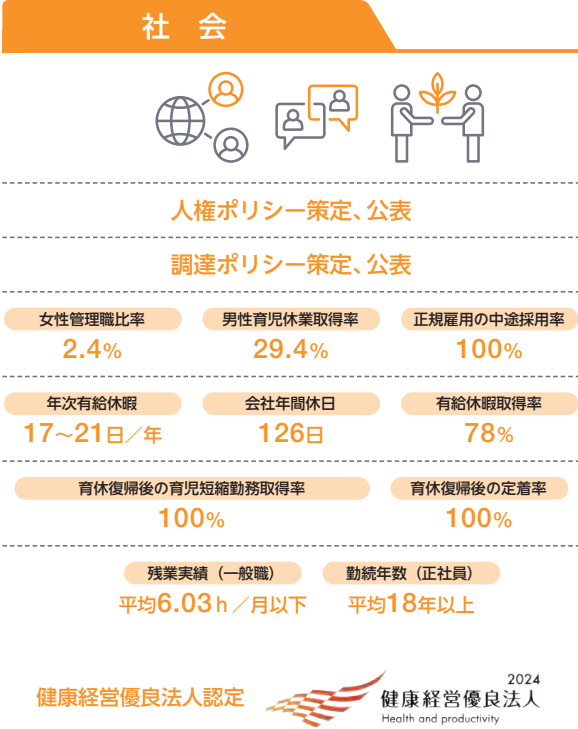
サステナビリティ経営情報をまとめたレポートを作成いたしました。



代表取締役社長 CEO
稲葉 英樹

サステナビリティ ハイライト

オリジンは、社会環境の動きを捉えながら、経営理念、サステナビリティ基本方針のもと、オリジンの強みである技術を核とした経営資源を活用し、事業を展開しています。中期経営計画の『ニッチ・トップ』を目指して「変革」と「成長」のもと、新たな技術の探索、新規事業の創出を進め、お客様に安心と快適を提供し、社会課題の解決にも貢献していきます。



中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目／期別	前 期 2024年3月31日現在	当中間期 2024年9月30日現在
資産の部		
流動資産	28,887	26,275
固定資産	18,680	18,939
有形固定資産	9,828	10,530
無形固定資産	420	437
投資その他の資産	8,431	7,971
資産合計	47,568	45,214
負債の部		
流動負債	10,509	8,924
固定負債	10,710	10,277
負債合計	21,220	19,202
純資産の部		
株主資本	18,585	18,158
その他の包括利益累計額	5,365	5,500
非支配株主持分	2,396	2,353
純資産合計	26,347	26,012
負債純資産合計	47,568	45,214

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目／期別	前中間会計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日	当中間会計期間 自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日
売上高	13,810	14,038
売上原価	10,673	10,583
売上総利益	3,136	3,454
販売費及び一般管理費	3,587	3,385
営業利益又は営業損失 (△)	△451	69
営業外収益	510	323
営業外費用	129	184
経常利益又は経常損失 (△)	△70	207
特別利益	2	8
特別損失	47	7
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失 (△)	△115	208
法人税等	242	223
中間純損失 (△)	△357	△15
非支配株主に帰属する中間純利益	92	62
親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	△449	△77

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目／期別	前中間会計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日	当中間会計期間 自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△299	△515
投資活動によるキャッシュ・フロー	△200	△585
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,757	△884
現金及び現金同等物に係る換算差額	213	138
現金及び現金同等物の増減額	1,471	△1,847
現金及び現金同等物の期首残高	6,577	8,033
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,048	6,186

会社概要

(2024年9月30日現在)

会社設立年月日	1938年 (昭和13年) 5月1日
代 表 者	代表取締役社長 稲葉 英樹
資 本 金	6,103,252,996円
従 業 員 数	619名

主要な事業所

本社事業所	〒338-0823 埼玉県さいたま市桜区栄和3-3-27
間々田工場	〒329-0211 栃木県小山市暁3-10-5
瑞 穂 工 場	〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-3-11
吉 見 工 場	〒355-0156 埼玉県比企郡吉見町大字長谷字八幡1915
朝 霞 開 発 セ ン タ ー	〒351-0012 埼玉県朝霞市栄町3-3-25
熊本デザイン ルーム	〒869-0533 熊本県宇城市松橋町両仲間58
大 阪 支 店	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4-800 大阪駅前第4ビル812号
名古屋支店	〒451-0045 愛知県名古屋市中区名駅1-1-17 名駅ダイヤメイテツビル 14階

取締役および執行役員

(2024年9月30日現在)

代表取締役会長	妹 尾 一 宏	上席執行役員	駒 形 秀 樹
代表取締役社長	稲 葉 英 樹	上席執行役員	福 田 健 夫
取締役上席執行役員	佐 藤 好 生	上席執行役員	宮 田 寛 司
取締役上席執行役員	内 藤 佳 彦	上席執行役員	栗 原 貴 志
取締役(社外)	小 池 達 子	執行役員	飯 塚 和 良
取締役常勤監査等委員	宮 内 公 平	執行役員	増 田 康 夫
取締役監査等委員(社外)	千代延 郁 男	執行役員	鶴 島 幸 治
取締役監査等委員(社外)	平 澤 久	執行役員	岩 崎 敏 夫
		執行役員	岡 部 敬 三
		執行役員	加 藤 義 則
常務執行役員	琴 寄 正 彦		
常務執行役員	杉 山 泰 之		
常務執行役員	赤 松 敦		

株式の状況

(2024年9月30日現在)

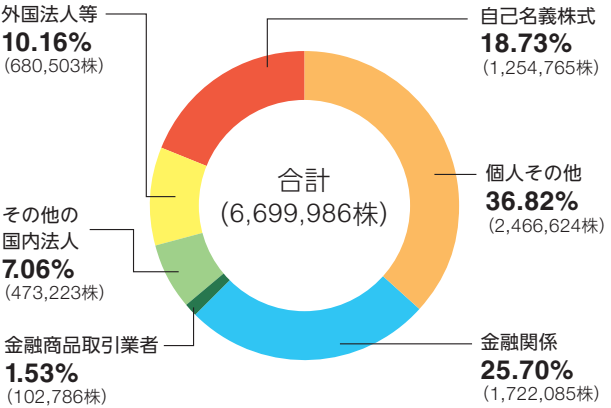
発行可能株式総数	26,600,000株
発行済株式の総数	6,699,986株
株主数	4,010名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
オリジン取引先持株会	479	8.80
損害保険ジャパン株式会社	376	6.91
明治安田生命保険相互会社	302	5.56
EUROPEAN DEPOSITARY BANK SA – DUBLIN – BUTTERMERE DEEP VALUE FUND LIMITED	283	5.21
株式会社みずほ銀行	261	4.80
株式会社りそな銀行	156	2.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	131	2.42
オリジン従業員持株会	121	2.24
トーア再保険株式会社	121	2.23
島根 良明	113	2.08

(注) 1. 当社は自己株式1,254,765株を保有していますが、上記大株主から除いています。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

所有者別分布状況 (株式数別)



証券コード 6513
事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 3月31日
公告方法 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
電子公告にて行います。
公告掲載URL

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

<https://www.origin.co.jp/financial/koukoku/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する手続きのご案内

Stock Information

■ 単元（100株）未満株式 買取・買増制度のご案内

買取請求

100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

例：60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。

当社に市場価格で
売却

60株

—

60株

=



現金化

買増請求

100株（単元株式）に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株式にすることができる制度です。

例：60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。

40株を、
当社から市場価格で
購入

60株

+

40株

=

40株

60株

100株
(単元株式)

■ 特別口座から証券口座への振替手続きのご案内

特別口座に記録されている株式は、売買や譲渡等のお取引を行うことができません。特別口座に記録された株式の取引を行うためには、証券会社に取引口座を開設していただいたうえで、特別口座から証券口座に振替を行っていただく必要があります。

ご所有株式に関するお手続きについてのお問合せ先

「証券会社等の口座」で管理されている当社株式に関する
マイナンバーのお届出、配当金振込指定、
単元未満株式買取・買増請求、住所変更等

- 株式等の税務関係のお手続きに関しましては、マイナンバーのお届出が必要です。
- お届出が済んでいない株主さまは、お問合せ先へマイナンバーのお届出をお願いします。

「特別口座」で管理されている当社株式に関する
配当金振込指定、単元未満株式買取・買増請求、住所変更等

未受領の配当金に関するお手続き

お取引口座を開設されている
証券会社

みずほ信託銀行証券代行部

〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4



0120-288-324（土・日・祝日を除く9：00～17：00）

